

# DOCUMENT EYE

152

## ●信号のない交差点における小学生の横断歩道を観察する 2時間に横断歩道を利用した小学生57人中 左右の安全確認をした小学生34人

### ● WHY 信号のない交差点での小学生の横断状況は?

9月中旬、横浜市内で下校途中の小学生の列に75歳の男性が運転する乗用車が突っ込み、1人が死亡、4人が負傷する



●観察地点／神奈川県横浜市都筑区池辺町付近  
●観察日／9月12日(金曜日)  
●天候／晴れ  
●観察時間／14:30～16:30  
●観察者／4名

↑手をあげて横断歩道を渡る小学生



走って横断する子ども

という痛ましい事故が発生した(9月13日付朝日新聞より)。

このように歩行中に交通事故に遭遇する小学生は少なくなく、平成13年の死傷者数は男子8773人、女子4611人の計1万3384人を数えている。このうち、全歩行者と比べてその構成率が高くなっているのが、信号のない交差点での事故だ。また、飛び出しによる事故が小学生の歩行者事故の半数近くを占めている(データはすべて平成13年版ビジュアルデータ―図で見る交通事故統計―より)。

### ● WATCHING

#### 手をあげて横断歩道を渡る小学生が目立つ

観察場所は横浜市都筑区内の小学校から300mほどの地点で、信号のない交差点3カ所について、小学生の横断状況を観察した。観察地点は狭く、緩やかに曲がっている変則的な所で、見通しはあまりよくない。周囲にはスーパーマーケットや学習塾、神社などがあり、スーパーの駐車場に出入りするクルマや方向転換を行なうクルマもかなり見られた。

別表のように、2時間に横断歩道を利用した小学生とみえる子どもは97人中57人(58.8%)だった。横断歩道以外の路上を横断した小学生は40人だったが、ほとんどの場合、横断歩道付近の横断だった。

観察の結果、小学生の多くは、手をあげて横断歩道を渡っていた。クルマが来ないのを確かめて、あるいはクルマが近い場合は、立ち止まって、通過するのを待ち、周囲の安全を確認した後に横断歩道を渡っていた。安全確認は横断歩道、横

断歩道以外にも左右両方行なっている小学生が比較的多かった。走って横断歩道を渡った小学生も97人中18人見られたが、11人が左右の安全確認をしていた。

中には下を向いて本を読みながら道路を横断した女の子がいたが、このときは、友人の女の子と一緒に、友人が左右の安全を確認した後に一緒に手をつないで横断歩道を渡っている。また、肩を組みながら横断後、再び肩を組んで歩いていった。観察中、横断歩道上に駐車する車両があったり、小学生が横断歩道で手をあげているにも関わらず、減速しないクルマが多いなど、ドライバーのマナー自体は悪く感じられた。このほか、スーパーの駐車場で前後に移動して切り返しを行なうクルマが多かったが、すぐそばを小学生が歩いていても停止する様子は見られず、小学生の方がクルマが停止するまで待つ場合が多かった。

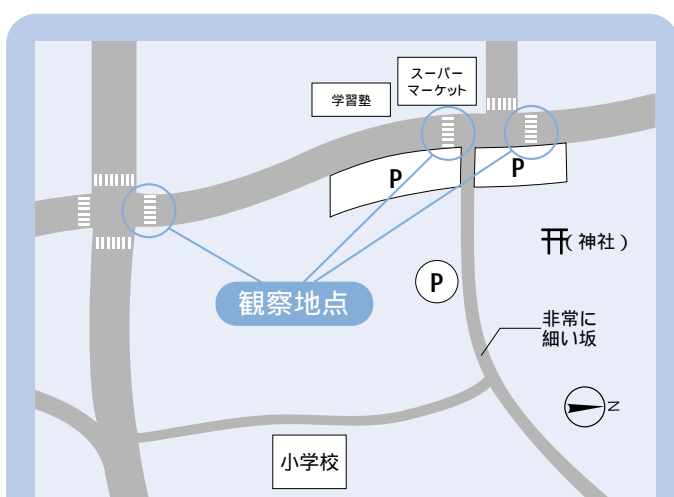
### ● PROPOSE 子どもの安全意識を無視するドライバーにならない

観察の結果、下校時の小学生の約6割が横断歩道を利用していた。また横断歩道上で34人、全体では42人が、左右の安全を確認してから横断歩道を渡っていた。しかし、ドライバーの多くは、横断者の動きを無視して停まらずに通過してしま

った。このように、ルールを止しく守っている子どもたちに対して、ドライバーの運転は、他車にばかり気をとられ、歩行者、とくに小さな子どもたちの動きに注意を払っていないように思えなかった。横断歩道上に駐車されたクルマも数台観察されたが、これでは子どもたちの視界は遮断されてしまう。「歩行者優先」という言葉を再認識して、安全運転につとめてほしい。



写真上／本を読みながら歩く小学生 写真下／キックボードに乗る子ども



信号のない交差点における小学生の横断状況(97人中)

	安全確認	横断歩道(57人)		横断歩道以外(40人)		計
		歩いて渡る	走って渡る	歩いて渡る	走って渡る	
左右		23	11	8	0	42
片側		12	2	15	2	31
しない		9	0	12	3	24
計		44	13	35	5	97